

# 福音とは何か？

*Doyle Davidson*





mariait/Shutterstock.com

ドイルデビッドソンは1932年ミズーリ州サルコクシー近くの農園に生まれた。朝鮮戦争中は米国海軍衛生下士官として従軍し日本の横須賀で27ヶ月間過ごした。帰国後1958年ミズーリ大学獣医学部に入学を許可されたが、入学の直前に神が彼を訪れ、彼は聞いた。「私はあなたが獣医になることを望まない。福音を伝える牧師になってもらいたい。その日彼は神に従わず、そのまま進学して獣医学博士になった。馬の専門獣医として開業し成功した。

1968年神はドイルの生活に入り込み、2年間神は彼の車の中に乗り込んできていつ福音書の説教を始めるのかと問いかけた。1969年主は病院と医療業務を売却し主に従うよう彼に命じた。1970年1月2日売却が完了し彼は行き先を知らず車で行き去った。少年として生まれ変わったとはいえ、イエスはこの日彼の人生の主となり、彼はやがて聖霊によって水の中で洗礼を受けた。神は1974年彼をイスラエルに派遣し、6月16日熱烈な心で使徒言行録によりガーデントウムで福音書を説かせた。1980年神はドイルに指示しテキサス州プラノの人々に話しかけさせた。かれは生命の水教会を創設し1982年に獣医業を閉じた。

ドイルは主イエスキリストの奉仕者かつ使徒と呼ばれている。2017年主は彼に言われた「私は絶望も恐怖もない私の言葉を四方の世界に伝えるためにあなたを選び遣わした。」

**Water of Life Ministries**  
**P.O. Box 941925**  
**Plano, Texas 75094 USA**  
**[www.doyle davidson.com](http://www.doyle davidson.com)**

# 福音とは何か？

ドイル デビッドソン 著

別途特記しないかぎり聖書からの引用は  
すべて日本聖書協会発行「新共同約聖書」に基づきま  
す。

**@2019** ドイル デビッドソン 著  
所有権保有  
印刷 アメリカ合衆国

生命の水教会  
私書箱 **941925**  
プラノ、テキサス **75094**



## 謝辞

生命の水教会の皆様方のご支援とご協力に感謝いたします

## 目次

はじめに	i
神の召命	1
福音の定義	4
福音が隠されている理由	15
イエスは福音を宣べ伝えた	18
悔い改めて福音を信じなさい	25
使徒は福音を宣べ伝えた	29
信仰の言葉	36
種を蒔く人の譬え	41
キリストの賜物	46





## はじめに

本書の目的は「福音とは何か」という問いに答えることです。この問いに対する答えを知っている人に会うことは殆どありません。しかしこれは答えを求められるもっとも大事な問いです。福音の啓示はイエスキリストの弟子であるために本質的に重要です。ヨハネによる福音書 15:18 は書いています:

**あなた方が豊かに実を結び、わたしの弟子となるなら、それによって、私の父は栄光をお受けになる。**

私たちは実を結ぶときにイエスの弟子となります。私はこの書で福音があなたの人生に実を生み出すことを示します。福音があなたの人生に実を結ばせるのは、それが神の力だからです。使徒パウロはローマの信徒への手紙 1:16 で書いています:

**わたしは福音を恥としない。福音は、ユダヤ人をはじめ、ギリシャ人にも、信じる者すべてに救いをもたらす神の力だからです。**

福音は救いに向けた神の力です。この書で救いはキリストを受けたことで終わらないことを示します。救いはあなたが必要なすべてを含みます。あなたの人生に対する神の約束の表明を体験するためには福音を信じなければなりません。

ひとたび福音の啓示を受けた後は、それを信頼し、支えとし、固執することを奨めたいと思います。ここで警告します、これは闘いなのです。あなたの魂は福音の固持から逃れようとし、神は自分の魂に打ち勝つ方法を私に教え

## ii 福音とは何か？

てくれました。神が私に実行するように与えてくださった教えの一部を書き記します：

フィリピの信徒への手紙 4:9 で使徒パウロは書いています：

わたしから学んだこと、受けたこと、私について聞いたこと、見たことを実行しなさい。そうすれば、平和の神はあなたがたと共におられます。

### 毎日声を出して神の言葉を読みます

神は聖書、特に詩編と新約聖書を、声を出して読むように教えました。エレミア書 23:29 で神はその言葉は火と槌のようだと言いました。あなたは詩編と新約聖書を通じて福音が書かれていることを見出します。福音は私たちの心に対処する上で火のように槌のように機能します。

### 断食によって心を謙虚にします

聖書を通じて様々な断食が見つかります。詩編 35:13 でダビデは断食によって魂を苦しめたと述べています。イザヤ 58:6-7 は主が栄誉を与える種類の断食をあなたに告げます。これらの詩は悪による束縛をたち、軛の結び目をほどき、虐げられた人を解放し、軛をことごとく折るために私たちは断食するべきであると書いています。イザヤ 58:8 このような断食から期待できる結果を示しています。

### 霊の導きを求めます

ローマの信徒への手紙 8:14 は神の子となるには神の霊によって導かれなければならないと書いています。イエスはイエスの羊はイエスの声を聞くとされています。神の声を聞くには、聞けると信じなければなりません。あなたが神の羊の一人であると信じなければなりません。ヘブライ人への手紙 8:11 は小さな者から大きな者に至るまですべてが神を知るようになると書いています。霊に導かれるためには、神の声を聞いて神に従わなければなりません。

### 絶えず祈ることを学びます

テサロニケの信徒への手紙 I 5:17 は絶えず祈らなければならぬと書いています。マタイによる福音書 26:41 でイエスは弟子たちに誘惑に陥らぬよう目を覚まして祈っていなさいと言いました。

### 毎日神の言葉である福音について瞑想します

箴言 4:20-22 で箴言の作者は私たちが神の言葉に耳を傾けなければならず、これを見失ってはならず、これを心に納めて守らなければならぬと言っています。その結果は生命と肉体の健康です。

フィリピの信徒への手紙 4:9 で、使徒パウロは書いています：

わたしから学んだこと、受けたこと、わたしについて聞いたこと、見たことを実行しなさい。そうすれば、平和の神はあなたがたと共におられます。

使徒パウロは福音だけを知ろうと決心したことをこの書で示します。あなたと私は同じことをするように努力しなければなりません。

ドイル デビ



## 第1章

# 神の召命

神がどのように私の人生に現れて福音の牧師として召命されたかということから始めたいと思います。神が福音を使徒パウロに啓示され世界に説くために送り出されたように、神は私に福音を啓示され世界に説くために送り出されました。

1958年8月、私は自分の車のタイヤのローテーションをしていました。合衆国海軍を除隊したばかりでミズーリ大学獣医学部に入学が決まったばかりでした。突然神の存在が私を取り囲みました。それはあたかも透明な気体の雲が私を取り囲んだようでした。神の声が私を覆い包み「獣医になってもらいたくない、福音を伝える者になることを望む。」と響きました。神がそこにおられることを畏れるあまり、私は街中で座り込んで大声で祈りました。

しかし私にはそれが神だとは信じられず、その秋に進学して獣医学科に入りました。数年後、神は1958年のその日に最初に話しかけたとき私が従わなかったのは不信仰が理由であったことを示してくださいました。

それから10年の間に、私は大学を卒業しテキサス州北部で馬専門獣医を開業し成功していました。しかしその年月、主の霊が何度も私を訪れ「お前はいつ福音を説き始めるのだ」と問いました。

1968年、私は真剣に聖書を読み始めました。1968年から1970年までの間に創世記からヨハネの黙示録まで聖書を2回読み通しました。生まれてから初めて、読むにつれて

## 2 福音とは何か？

聖書の言葉が私の心に跳び込んできました。神は私に聖なる言葉を啓示されました。

獣医の仕事に従事していた頃、私は多数の事業に投資をしました。その中の一つには 25% 所有していた会社がありました。1969年6月、私は神に話しました「福音を伝えるよう長年私を悩まし続けていたのがあなたでしたら、この会社を売ってくだされば、御心のままに何でもいたします。」驚いたことに次の日、他の株主が二人やってきて私の持ち分を買いたいと提案してきました。私たちは2時間で売却取引を完了しました。

2週間後、神は私がテキサス州マッキニーに建てた動物病院を売却するように告げられました。私は神に言いました「動物病院を売りたいとは申し上げませんでした。」神は答えました「あなたは私が求めることなら何でもすると言った。」そこで私は言いました「そうですが、病院を売りたいという意味ではありませんでした。」しかし、私に語っているのは神であり、「何でも」と言ったのは正にその通り一何でもであることが、私には判っていました、だから今回は従いました。次の数ヶ月間に病院を売却し多くの事業投資と保有資産の処分を始めました。1970年5月、主に話しました、「私の罪を許し私の生涯の主であってください」と。

### 救いの福音

神が私に啓示を始められたころの最初の一節の一つはエフェソの信徒への手紙 1-13:14 でした。次のように書いています：

あなた方もまた、キリストにおいて、真理の言葉、救いをもたらす福音を聞き、そして信じて、約束された聖霊で証印を押されたのです。（13節）

### 福音の定義 3

この聖霊は、わたしたちが御国を受け継ぐための保証であり、こうして、わたしたちは贖われて神のものとなり、神の栄光をたたえることになるのです。（14 節）

私は「救済の福音」が真理の言葉と呼ばれていることを見ました。「福音」と「救い」は教会でこれまでの人生を通じて聞き続けてきた二つの言葉でしたが、いずれの言葉についても本当の意味を知りませんでした。

さらに、私は第 13 節の二つの別々の体験—福音による救いとこれに続く聖霊の中での洗礼を見いだしました。いずれについても私は本当に何も知りませんでした、しかし次の 3 年から 4 年間、聖書を集中して学び始めるにつれて神はこれを私に啓示されました。

## 4 福音とは何か?

### 第2章

## 福音の定義

学んでいたある日、信仰がヘブライ人への手紙 11:1 に定義されているのとまったく同じように福音はコリントの信徒への手紙 I 15:1-4 に定義されているのを見て驚きました。人々はしばしば信仰の定義としてヘブライ人への手紙 11:1 を参照します。しかし、福音の定義として誰かがコリント人への手紙 I 15:1-4 に言及するのを聞くことは殆どありません。

コリント人への手紙 I 15:1-4 を読みます、その後でそれぞれの節を詳しく見ることにします。

兄弟たち、わたしがあなたがたに告げ知らせた福音を、ここでもう一度知らせます。これは、あなたがたが受入れ、生活のよりどころとしている福音にほかなりません。(1 節)

どんな言葉でわたしが福音を告げ知らせたか、しっかり覚えていれば、あなたがたはこの福音によって救われます。さもないと、あなたがたが信じたこと自体が、無駄になってしまうでしょう。(2 節)

最も大切なこととしてわたしがあなた方に伝えたのは、わたしも受けたものです。すなわち、キリストが、聖書に書いてあるとおりにわたしたちの罪のために死んだこと、(3 節)

葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりに三日目に復活したこと(4 節)



パウロ福音を説く

1節を見ます:

兄弟たち、わたしがあなたがたに告げ知らせた福音を、ここでもう一度知らせます。これは、あなたがたが受入れ、生活のよりどころとしている福音にほかなりません。

パウロはコリントの人々に福音を説き彼らはこれを受入れたと書いています。あなたは福音を受入れなければなりません。どこで福音を受入れますか。福音は心で受入れます一知力ではありません。

次に 1 節はいったん福音を受入れたら生活のよりどころとしなければならないと書いています。神の言葉なら何でもよりどころするということはできません。ローマの信徒への手紙 1:9 で、パウロは書いています:

わたしは、御子の福音を述べ伝えながら心から神に仕えています。その神が証ししてくださることですが、わたしは、祈るときにはいつもあなたがたのことを思い起こし、

パウロは福音の精神によって心から神に仕えていると書いています。私たちは福音を生活のよりどころとしなければなりません、何故なら福音は私たちの救いのための神の力だからです。

神の力

福音が私たちの救いのための神の力であることはどのようにして判るのでしょうか。それは、ローマの信徒への手紙 1:16 に書いています:

わたしは福音を恥としない。福音は、ユダヤ人を

## 6 福音とは何か？

はじめ、ギリシャ人にも、信じる者すべてに救いをもたらす神の力だからです。

この節の「力」という言葉はギリシャ語のドゥナミスで、能力を意味します。福音は信じる者すべてを救済される神の能力です。

### 救い

ローマの信徒への手紙 1:16 のことば「救い」は健全あるいは安全にされることを意味します。これには生まれ変わる体験を含みますが、これだけではありません。

神は人が非常に簡単に生まれ変わることができるようにされました。しなければならないことはイエスの名を呼び求めイエスが死から復活したことを信じることだけです、これであなたの魂は救われます。ローマの信徒への手紙 10:13 は主の名を呼び求める者はだれでも救われる、と書いています。

しかし、救いには生まれ変わり以上の多くのことを含んでいます。救いはあなたが必要とするすべてを含みます。ヨハネの手紙Ⅲは書いています：

愛する者よ、あなたの魂が恵まれているように、あなたがすべての面で恵まれ、健康であるようにと祈っています。

あなたの魂が豊かになるにつれて繁栄と健康がやってきます。

あなたの魂はどのように豊かになるのでしょうか。ペテロ I 1:22 は書いています：

あなたがたは、真理を受け入れて、魂を清め、偽

りのない兄弟愛を抱くようになったのですから、  
清い心で深く愛し合いなさい。

あなたは真理を受入れて魂を清めなければなりません。この節の「受入れて」は従順に耳を傾けることを意味します。新約聖書の真理の中には主イエスキリストの言葉および神がその霊によってあなたに行うように命じているその他のことを含んでいます。したがって魂を清める方法は従順に耳を傾けて神があなたに命じていることを行うことです。

### 福音を記憶する

コリントの信徒への手紙 I 15:2 に戻りましょう：

もしあなたがたが、いたずらに信じないで、どんな言葉でわたしが福音を告げ知らせたか、しっかり覚えていれば、あなたがたはこれ[この福音]によって救われます

2 節はあなたの精神、身体、魂が救われ、健康であるためには、福音を記憶し堅く心に抱き続けなければならないと書いています。もし 1 時間は心にあっても 1 日の残りの時間は他のことを信じているならば、福音があなたを救うことはないでしょう。

あなたの精神、身体、魂を健全にすることは神が望むところです。エフェソの信徒への手紙 3:16 を見てください。これはパウロがエペソの教会のために祈った祈りです：

どうか、御父が、その豊かな栄光に従い、その霊により、力をもってあなたがたの内なる人を強めてくださるように

## 8 福音とは何か？

神は意思と感情を含めあなたの内なる人を強くしたいと望んでいます。

神はどのようにしてあなたの内なる人を強められるのでしょうか。ひとつの方法は他の言語で祈ることです。ユダの手紙 20 は書いています：

しかし、愛する人たち、あなたがたは最も聖なる信仰をよりどころとして、生活しなさい。聖霊の導きの下に祈りなさい。

他の言葉で祈りながら福音を信じ信仰と一緒にしなさい、あなたの自己が確立します。同じように詩編あるいは新約聖書を音読して自己を確立します。

霊の牧師も内なる人を強化できるもうひとつの方法です。ローマの信徒への手紙 1:11 で、パウロは書いています：

あなたがたにぜひ会いたいのは、「霊」の賜物をいくらかでも分け与えて、力になりたいからです。

霊の牧師はあなたに霊の贈り物を分け与えあなたを確立します。

### 福音の定義

コリントの信徒への手紙 I 15:1-2 は私たちが福音を受けて福音をよりどころとして生きるとき、福音により救われると書いています。コリントの信徒への手紙 I 15:3-4 は福音とは何であるかを語っています：

最も大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えたのは、わたしも受けたものです。すなわち、キリストが聖書に書いてあるとおりにわたしたちの罪のために死んだこと、（3 節）

### 葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおり三日目に復活したこと（4節）

キリストは死に、葬られ、三日目に復活したという聖書のこれらの節を神が初めて私に示し始めたとき私の知性と霊性の間に激しい闘いが起こりました。私の知性は、福音はユダが接吻をしてイエスを裏切ったときからイエスが復活して血を付けたまま昇天したときまでに起こったすべての具体的な事柄を含んでいると言いたかった。例えば、イエスが頭に被った茨の冠も福音の一部であると考えました。同時に私の霊性は、福音は単にイエスは死んで、葬られ、三日目に復活したという福音の真実を知っていました。

### 肉との対立

使徒パウロも体験に基づいて知性（肉）と霊の間の対立について書いています。

パウロはガラテヤの信徒への手紙 5:17 で書いています：

肉の望むところは、霊に反し、霊の望むところは肉に反するからです。肉と霊とが対立し合っているのです、あなたがたは、自分がしたいと思うことができないのです。

コリントの信徒への手紙 I 2:11 ではパウロは次のように書いています：

人のうちにある霊以外に、いったいだれが、人のことを知るでしょうか。同じように、神の霊以外に神のことを知る者はいません。

さらに、コリントの信徒への手紙 I 2:14 では：

自然の人は神の霊に属する事柄を受入れません。

## 10 福音とは何か？

その人にとって、それは愚かなことであり、理解できないのです。霊によって初めて判断できるからです。

肉は霊に対して強い渴望があります。神の霊を除けば神について知ることはできません。霊に属する事柄は自然の人にとっては愚かなことです。これは霊の世界を歩むすべての人が経験する対立です。

あなたの肉を克服する

ヨハネによる福音書 16:13 は聖霊が「あなたがたを導いて真理を悟らせ」なければならないと述べていたことを知っていました。私はひたすら謙虚に主に向かって「これは自分では理解できません。あなたが教えてくださらなければなりません。」と言うほかありませんでした。

私はテモテへの手紙 II 2:7 を実行しました：

わたしの言うことをよく考えて見なさい。主はあなたがすべてのことを理解できるようにしてくださるからです。

箴言の作者は箴言 4:20-22 で似たように書いています：

わが子よ、わたしの言葉に耳を傾けよ。  
わたしの言うことに耳を向けよ（20 節）

見失うことなく、心に納めて守れ（21 節）

それらに到達する者にとって、それは命となり  
全身を健康にする（22 節）

パウロはテモテに話されていることを考えるように言った。箴言の作者は皿に一步進めて「耳を傾けよ」すなわち

## 福音の定義 11

、言葉を換えれば、耳を垂れて聴くまたは話しを十分に傾聴することと言っている。

肉を克服しなければならなかった対立を知っているかたは神だけです。この時期に神が私を力づけるために使った聖書の一節をふたつ示します。フィリピの信徒への手紙 1:6 をご覧ください:

**あなたの中で良い業を始められた方が、キリスト・イエスの日までに、その業を成し遂げてくださると、わたしは確信しています。**

次に、フィリピの信徒への手紙 2:13 に:

**あなたがたの内に働いて、御心のままに望ませ、行わせておられるのは神であるからです。**

主は、聖書のこの二つの節を聖霊によって私に示し、私が自分の人生に箴言 4:20-22 を引き続き適用するために必要な励ましを与えました。

主は数か月にわたって、イエスは正に死に福音は正に一「イエスは聖書に書いてあるとおり私たちの罪のために死んだこと、葬られたこと、また聖書に書いてあるとおり三日目に復活したこと（コリントの信徒への手紙 I 15:3-4）」であると聖霊によって私を確信させました。これはイエスが説いたことであり、これは使徒たちが説いたことであり、これはあなたと私が説くべきことであると後であなたに示します。

さらに続ける前に、イエスは死んだこと、葬られたこと、また三日目に復活したことをもう一度強調したいと思います。「イエスはあなたの罪のために死んだ」は充分ではありません。

コリントの信徒への手紙 I 15:13-17:

## 12 福音とは何か？

使者の復活がなければ、キリストも復活しなかったはずです。（13 節）

そしてキリストが復活しなかったのなら、私たちの宣教は無駄であるし、あなたがたの信仰も無駄です。（14 節）

14 節は復活がなければ私たちの宣教は無駄であると明白に書いています。

15-17 節を読みます：

更に、わたしたちは神の偽証人であるとさえ見なされます。なぜなら、もし、本当に死者が復活しないなら、復活しなかったはずのキリストを神が復活させたと言って、神に反して証をしたことになるからです。（15 節）

死者が復活しないのなら、キリストも復活しなかったはずです。（16 節）

そして、キリストが復活しなかったのなら、あなたがたの信仰はむなしく、あなたがたは今もお罪の中にあることとなります。（17 節）

17 節に注目します、もし、イエスが復活しなかったのなら、私たちは今もお罪の中にあります。福音の一部だけを信じて救われることはできません。さらに具体的に言えば、「イエスはあなたの罪のために死んだ」と信じることはできません。もしあなたがイエスは死者から復活したと信じなければ、あなたはなお罪の中にいるのです。これは現在の教会が罪についてなぜ多くの問題を抱えているかを説明します。彼らは復活を信じません。マタイによる福音



書 9 章で律法学者はイエスに立腹します、なぜならイエスが中風の人にあなたの罪は許されると言ったからです。5-6 節でイエスは言います:

「あなたの罪は赦される」と言うのと、「起きて歩け」と言うのと、どちらが易しいか。(5 節)

人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを知らせよう。そして中風の人に「起き上がって床を担ぎ、家に帰りなさい」と言われた。(6 節)

イエスは罪の許しと病の癒しを区別されなかった。何故でしょうか。復活の力を信頼していたからです。力が人に触れたとき、病が去ったのと同じように、罪が去ることを知っておられたのです。

### 復活の力

イエスが私たちのためになされたイエスが死者から復活したときに私たちのものとなりました。イエスは私たちの罪を十字架の上で取り去りましたが、イエスが死者から復活するまで私たちは許されませんでした。イエスは私たちの貧しさを十字架の上で取り去りましたが、私たちはイエスが死者から復活するまで豊かになりませんでした。

コリントの使徒への手紙 II 1:20 を見ます:

神の約束はことごとくこの方(イエス)において「然り」となったからです。それで、わたしたちは神をたたえるため、この方を通して「アーメン」と唱えます。

神のすべての約束はイエスを通じた然りとアーメンですが、あなたは約束に頼りあるいは言葉に頼っては約束の顕現を体験しません。福音を信じることにより顕現を体験し

## 14 福音とは何か？

まず、別の言い方をすると、福音が行うことを頼りにして約束の顕現を体験するのです。

エフェソの信徒への手紙 1:17-23 はパウロがエフェソの教会のために行った祈りです。これは私が世界のためにしばしば行う祈りです。17-20 節を見ます：

どうか、私たちの主イエスキリストの神、栄光の源である御父が、あなたがたに知恵と啓示との霊を与え、神を深く知ることができるようにし、（17 節）

心の目を開いてくださるように。そして、神の招きによってどのような希望が与えられているか、聖なる者たちの受け継ぐものが、どれほど豊かな栄光に輝いているか悟らせてくださるように。（18 節）

マタ、わたしたち信仰者に対して絶大なちからが働きをなさる神の力が、どれほど大きなものであるか、悟らせてくださるように。（19 節）

神は、この力をキリストに働かせて、キリストを死者の中から復活させ、天においてご自分の右の座に着かせ、（20 節）

イエスを死者から復活させた力を知ることができる前に、あなたはイエスの知恵と啓示との霊を受け、心の目が開かれなければなりません。あなたの人生で神のすべての約束を伝える力は、神がイエス死者から復活させたときに神がイエスに対して働かせた力と同じです。だからこそ福音の啓示は本質的に重要です。

### 第3章

## 福音が隠されている理由

私が牧師であった頃、人々がしばしばやってきて私に言いました、「あなたにお会いするまで福音が何であるか知りませんでした。」他の人々は来てこのように言いました、「友人に福音とは何であるかと尋ねました、しかし一人として答えられませんでした。」その理由はコリントの信徒への手紙Ⅱ 第4章に見つけることができます：

コリントの信徒への手紙Ⅱ 4-1-2 を見ます：

こういうわけで、わたしたちは、憐れみを受けた者としてこの勤めをゆだねられているのですから、落胆しません（1節）；

かえって、卑劣な隠れた行いを捨て、悪賢く歩まず、神の言葉を曲げず、真理を明らかにすることにより、神の御前で自分自身をすべての人の良心にゆだねます（2節）。

福音が人間の良心のことに触れている第2節に注目します。

続いて第3-4節を読みます：

わたしたちの福音に覆いが掛かっているとすれば、それは、滅びの道をたどる人々に対して覆われているのです(3節)：

この世の神（悪魔）が、信じようとはしないこの人々の心の目をくらまし、神の似姿であるキリス

## 16 福音とは何か？

トの栄光に関する福音の光が見えないようにしたので（4 節）

悪魔が滅びの道の人々の考えを盲目にできる理由が判りますか。それはその人々が福音を信じないからです。

第 5-7 節を読みます

わたしたちは、自分自身を宣べ伝えるのではなく、主であるイエス・キリストを宣べ伝えています。わたしたち自身は、イエスのためにあなたがたに仕える僕なのです。（5 節）

光に命じられた神は……

第 4 節で見たように、この光がキリストの栄光に満ちた福音です。

「闇から光が輝き出よ」と命じられた神は、わたしたちの心の内に輝いて、イエスキリストの御顔に輝く神の栄光を悟る光を与えてくださいました（6 節）。

ところで、わたしたちは、このような宝を土の器に納めています。この並外れて偉大な力が神のものであって、わたしたちから出たものでないことが明らかになるために（7 節）。

この光があなたの心の内に輝くために必要なのは福音を信じることだけです。

### 何故人は福音を信じようとししないのか

ヨハネによる福音書 3:19-20 は人が福音を信じようとししない理由を説明しています。

光が世に来たのに、人々はその行いが悪いので、

## 福音が隠されている理由 17

光よりも闇の方を好んだ（19 節）。

悪を行うものは皆、光を憎み、その行いが明るみに出されるのを恐れて、光の方に来ないからである（20 節）。

これらの節では人々は行いが悪いので福音よりも闇を愛すると明白に述べている。20 節では人々は行いを非難されたくないなので、福音を憎むとさえ述べている。「非難する」という言葉は「有罪とする」を意味します。

次に第 21 節は述べます：

しかし、真理を行う者は光の方に来る。その行いが神に導かれてなされたということが、明らかになるために。

真理を行う者の行いは神に導かれていることが明らかになります。

## 第4章

# イエスは福音を宣べ伝えた

ヨハネの手紙Ⅰ 2:6 は神の内にもいつもいると言う人は、イエスが歩まれたように自らも歩まなければなりません。イエスが歩まれたように歩むべきとすると、イエスの宣べ伝えを調べなければなりません。

マルコによる福音書 1:4 を見ます:

**ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤへ行き、神の福音を宣べ伝えた。**

何故イエスはガリラヤに行って宣教したのか。イエスは神の国の福音を宣べ伝えたのです。

### 宣べ伝える

マルコによる福音書 1:14 中の言葉「宣べ伝える」は公に宣べまたは大勢に伝えることを意味します。イエスは行って神の国の福音を公に宣べあるいは大勢に伝えました。

イエスは単に言葉を宣べただけではありません、イエスは言葉と共に権威も示しました。ルカによる福音書 8:1 にイエスについて書いています:

**すぐその後、イエスは神の国を述べ伝え、その福音を告げ知らせながら、町や村を巡って旅を続けられた。十二人も一緒だった。**

イエスは宣べ伝えただけでなく、神の国の良き知らせ—福音—も示していた。

## イエスは福音を宣べ伝えた 19

使徒言行録 8:5-7 を見ます:

フィリポはサマリアの町に下って、人々にキリストを宣べ伝えた（5節）。

群衆は、フィリポの行うしるしを見聞きしていたので、こぞってその話に聞き入った（6節）。

第6節で、人々はフィリポが行った奇蹟を見聞きした。かれらは何を見、何を聞いたのか、7節を読みます:

実際、汚れた霊に取りつかれた多くの人たちからは、その霊が大声で叫びながら出て行き、多くの中風患者や足の不自由な人もいやしてもらった。

これが福音を宣べ伝えるときに実際に起きることです。

またイエスは権威をもって宣べ伝えました。マルコによる福音書 1:22 に書いています。

人々はその教えに非常に驚いた。律法学者のようにではなく、権威ある者としてお教えになったからである。

この節の「権威」という言葉はギリシャ語のエクシアです。これは特権を意味します。イエスは何について特権があったのでしょうか。

ルカによる福音書 4:32-36 を読みます。これはマルコによる福音書 1:22 と同じ話です。第32節から始めます:

人々はその教えに非常に驚いた。その言葉には権威（権限または特権）があったからである。

## 20 福音とは何か？

続いて 33-35 節に進みます：

ところが会堂に、汚れた悪霊に取りつかれた男がいて、大声で叫んだ。（33 節）。

「ああ、ナザレのイエス、かまわないでくれ。我々を滅ぼしに来たのか。正体は分かっている。神の聖者だ。」（34 節）。

イエスが、「黙れ、この人から出ていけ」とお叱りになると、悪霊はその男を人々の中に投げ倒し、何の傷も負わずに出て行った。（35 節）。

第 35 節では、イエスが汚れた霊にその男から出て行けと命令すると、霊は出て行った。

さてここで、第 36 節を見ます：

人々は皆驚いて、互いに言った。「この言葉はいったい何だろう。権威（特権）と力（権限）とをもって汚れた霊に命じると出て行くとは。」

イエスは権限と力をもって宣べ伝えた。イエスは悪霊に対する権限をもちイエスが話すとき悪霊は出て行った。

### 神の国が力を持つ

欺かれてはなりません。言葉で宣べ伝えるだけで力を示さなければ、神の国の福音を宣べ伝えることにはなりません。

パウロはコリントの信徒への手紙 I 4:18-20 で書いています：

わたしがもう一度あなたがたのところへ行くようなことはないを見て、高ぶっている者がいるそう



## イエスは福音を宣べ伝えた 21

です。（18 節）。

しかし、主の御心であれば、すぐにでもあなたがたのところに行こう。そして、高ぶっている人たちの、言葉ではなく力を見せてもらおう（19 節）。

神の国は言葉ではなく力にあるのですから（20 節）。

テサロニケの信徒への手紙Ⅰ 1:5 でパウロは書いています：

わたしたちの福音があなたがたに伝えられたのは、ただ言葉だけによらず、力と、聖霊と、強い確信とによったからです。わたしたちがあなたがたのところ、どのようにあなたがたのために働いたかは、ご承知のとおりです。

パウロが福音は言葉だけで来たのではないと述べる時、パウロが意味する「言葉」は死、埋葬、そして三日目の復活のことです。神についての単なる言葉ではありません。イエスが死に、葬られ、三日目に復活した一という福音です。福音とは神の力です。

### 気を惹く言葉によってではない

もしあなたがイエスのように宣べ伝えるとしたら、言葉だけによらず、また気を惹くような言葉で宣べ伝えることもしないでしょ。コリントの信徒への手紙Ⅰ 2:1-5 を見ます。この節で、パウロは次のように言っています：

兄弟たち、わたしもそちらに行ったとき、神の秘められた計画を宣べ伝えるのに優れた言葉や知恵を用いませんでした（1 節）。

なぜなら、わたしはあなたがたの間で、イエス・

## 22 福音とは何か？

キリスト、それも十字架につけられたキリスト以外、何も知るまいと心に決めていたからです（2節）。

パウロは優れた話法と偉大な知恵でかれらに印象付けようとコリントの信徒のところに行ったのではありませんでした。何故でしょうか。

引き続き 3-4 節を読みます：

そちらに行ったとき、わたしは衰弱していて、恐れに取りつかれ、ひどく不安でした（3節）。

わたしの言葉もわたしの宣教も、知恵にあふれた言葉によらず、「霊」と力の証明によるものでした（4節）。

パウロは気を惹くような言葉で宣べ伝えなかったと言います。パウロは知力を使って宣べ伝えませんでした。パウロは一つのことだけに関心がありました一霊と力を示すことでした。

第 5 節を読みます：

それは、あなたがたが人の知恵によってではなく、神の力によって信じるようになるためでした。

そこで、あなた方はパウロが福音—イエスの死、葬り、復活だけを知ろうと決心した理由をお分かりになると思います。福音は神の力であり、これだけが人の心を変えることができるのです。

十字架と福音は同一

## イエスは福音を宣べ伝えた 23

教会では、説教者が十字架あるいは十字架の宣べ伝えについてしばしば説教をするのを聴きます。私は、十字架はイエスが磔刑にされた二本の木柱ではなく、十字架と福音は同じものであることを示したいと思います。

パウロはコリントの信徒への手紙 I 1:17-18 でこのように書いています:

なぜなら、キリストがわたしを遣わされたのは、洗礼を授けるためではなく、福音を告げ知らせるためであり、しかも、キリストの十字架がむなしのものになってしまわぬように、言葉の知恵によらないで告げ知らせるためだからです (17 節)。

十字架の言葉は、滅んでいく者にとっては愚かなものですが、わたしたち救われる者には神の力です (18 節)。

第 18 節は非常に重要です。他の二つの翻訳を使ってもう一度この節を検討したいと思います。新国際版 (NIV) では次の通りです:

十字架が伝えることは滅んでいく者にとっては愚かなものですが、わたしたち救われた者には神の力だからです。

行間注解聖書の翻訳は NIV に非常に似ています。次のようになっています:

十字架の言葉は道に迷った者にとっては真に愚かなものですが、わたしたち救われている者には、神の力です。

十字架の宣べ伝えは「滅んでいく者」あるいは「道に迷った者」にとっては愚かなものですが、私たち「救われた者」にとっては神の力であることに注目します。

## 24 福音とは何か？

ローマの信徒への手紙 1:16 には福音は救いに導く神の力であると書いています。コリントの信徒への手紙 1 1:18 では十字架の教えは神の力です。これが十字架は単に二本の木の柱ではないと確信させました。いずれも十字架の出来事（すなわち、兵士たちがくじを引いて衣を分け合った）十字架ではありません。十字架と福音は同一です—イエスは死に、吊われ、三日目に復活したのです。

### 神はイエスを証明された

イエスは力を持つ神の国の福音を宣べ伝えて神に証明されました。使徒言行録 2:22 でペテロが言っていることを見ます：

イスラエルの人たち、これから話すことを聞いてください。ナザレの人イエスこそ、神から遣わされた方です。神は、イエスを通してあなたがたの間で行われた奇跡と、不思議な業と、しるしによって、そのことをあなたがたに証明なさいました。あなたがた自身が既に知っているとおりで。

もし神があなたの宣べ伝えを証明されるならば、イエスの宣べ伝えと正に同じように、奇跡と不思議な業があなたの宣べ伝えに続くでしょう。

## 第5章

# 悔い改めて福音を信じなさい

元に戻ってマルコによる福音書 1:14 を 15 節と関連づけて検討します:

ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤへ行き、神の福音を宣べ伝えて（14 節）

「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」と言われた（15 節）。

イエスは来て言われた、「悔い改めて、福音を信じなさい。」あなたが「悔い改めなさい」と「信じなさい」という言葉をより詳しく検討していただきたいと思います。

### 悔い改めなさい

あなたが子供の頃から教会に来ていたならば、おそらく「悔い改めなさい」という言葉を何度も聞いていることでしょう。何を意味しますか。「悔い改める」という言葉は考えを変えるあるいは別の考えをすることを意味します。悔い改めるときあなたは考えを変えて神に同意します。神の意志のためにあなたの意思を放棄するのです。

神はあなたを悔い改めに導かなければなりません。ローマの信徒への手紙 2:4 をご覧ください:

あるいは、神の憐れみがあなたを悔い改めに導くことも知らないで、その豊かな慈愛と寛容と忍耐とを軽んじるのですか。

## 26 福音とは何か？

神が私たち一人ひとりを悔い改めに導くのが神の善なのです。

コリントの信徒への手紙Ⅱ 7:8-10 を考えます：

あの手紙によって手紙によってあなたがたを悲しませたとしても、わたしは後悔しません。確かに、あの手紙が一時にもせよ、あなたがたを悲しませたことは知っています、たとえ後悔したとしても、（8節）

今は喜んでいます。あなたがたがただ悲しんだからではなく、悲しんで悔い改めたからです。あなたがたが悲しんだのは神の御心に適ったことなので、わたしたちからは何の害も受けずに済みました（9節）

神の御心に適った悲しみは、取り消されることがない救いに通じる悔い改めを生じさせ、世の悲しみは死に値します（10節）

「悲しみ」と「悔い改め」は同じではないことに注意します。単に済みませんと言うことは悔い改めあるいは心を変えて神に同意することと同じではありません。10節は神の御心に適った悲しみは、取り消されることがない救いに通じる悔い改めを生じさせ、世の悲しみは死をもたらします。

数年前有名な牧師と昼食を共にしました。かれは食事しながら前の日に地元のテレビ説教者と一緒であったと語りました。かれは二人で一日中悔い改めながら過ごしたと話しました。私は神の導きでこの男に告げました、あなたは神の御心に適った悲しみではなく一世の悲しみに巻き込まれている、世の悲しみは死をもたらすと。かれは次のように応えました、「だが、兄弟よ、あなたは悔い改めを信じ

## 悔い改めて福音を信じなさい 27

ないのですか。」私は言いました、「もちろん信じます—もし神の御心に適った悲しみなら。」その男は神が私を通じて言われていたことが分かりませんでした。三ヶ月後、かれは死にました。

悔い改めた後で信じる

いったん悔い改めたら、あなたは何かをしなければなりません。心を入れ替えなければなりません。イエスは言われました、「悔い改めて、福音を信じなさい。」

「信じる」という言葉は、頼る、従う、信頼するということを意味します。すなわち、あなたはイエスが死に、弔われ、そして三日目に復活したという福音を信頼し、頼り、従わなければなりません。

あなたが福音を信じるならば、そこから離れることはありません。福音を信じるならば、苦境あるいは厳しい環境を見ません。イエスが死に、弔われ、そして神が三日目に神の力で復活させたことを固く信じこれを堅持します。神がご自身をあなたのために現わすときまでその力に従います。

### 信仰と福音を結びつける

福音を信じるからには、信仰を福音と結びつけなければなりません。ヘブライ人への手紙 4:2 を考えます:

というのは、わたしたちにも彼ら同様に福音が告げ知らされているからです。けれども、彼らには聞いた言葉は役に立ちませんでした。その言葉が、それを聞いた人々と、信仰によって結び付かなかったためです。

第2節の「聞いた言葉」は福音—イエスの死、葬り、そして復活を言っています。ヘブライ人への手紙第3章では、

## 28 福音とは何か？

ヘブライ人への手紙 4:2 の言葉「彼ら」は荒れ野のユダヤ人のことです。福音は荒れ野のユダヤ人に宣べ伝えられました。何故でしょうか。彼らは信仰を福音と結び付けなかったからです。

だから、神があなたを悔い改めに導かれるようにしましょう。イエスは死に、弔われ、三日目に復活したと宣べる福音を信頼し、頼り、従いましょう。信仰を福音と結び付けましょう、これがあなたのためになります。



## 第 6 章

# 使徒たちは福音を宣べ伝えた

イエスは復活した後、使徒たちに現れた。ルカ 24:44-48  
をみます：

イエスは言われた。「わたしについてモーセの律法と予言者の書と詩編に書いてある事柄は、かならずすべて実現する。これこそ、まだあなた方と一緒にいたころ、言っておいたことである（44 節）。

そしてイエスは、聖書を悟らせるために彼らの心の目を開いて（45 節）、

言われた「次のように書いてある。『メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する 46 節：

イエスがまだ弟子たちと一緒にいたころ彼らに言っておいた「言葉」とは何であったか。第 46 節がこの質問に答えています—「メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。」イエスは彼らに福音を話されました。

第 47-48 節を続けます：

また、罪の許しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる』と。エルサレムから始めて（47 節）  
あなたがたはこれらのことの証人となる（48 節）。

### 30 福音とは何か？

#### しるしが福音の宣べ伝えに続く

マルコによる福音書 16:15-18 はイエスが天に上げられる前に弟子たちに命じたことを示している：

それから、イエスは言われた。「全世界に行つて、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい（15 節）。

信じて洗礼を受ける者は救われるが、信じない者は滅びの宣告を受ける（16 節）。

イエスは彼らに言われました、「信じて洗礼を受ける者は救われる。」救われるためには何を信じなければならないのか。第 15 節で、イエスは行って福音を宣べ伝えることを 11 人の弟子に命じました。したがって、もしあなたが福音—イエスの死、葬り、復活を信じるならば、あなたは救われると結論しなければなりません。

第 17-18 を読みます：

信じる者には次のようなしるしが伴う。彼らはわたしの名によって悪霊を追い出し、新しい言葉を語る（17 節）：

手で蛇をつかみ、また、毒を飲んでも決して害を受けず、病人に手を置けば治る（18 節）。

これらの節はしるしが福音の宣べ伝えに続くことを語っている。

神が福音を私に啓示していた期間中、私は別のカリスマ派の集会に出席していました。この集会で、説教者がマルコによる福音書第 16 章のこれらの節を読んだ後で、「もし癒やしを求めるなら、癒やしについて説教をしなさい。新

しい言葉を求めるなら、新しい言葉について説教をしなさい。もし繁栄を求めるなら、繁栄について説教をしなさい。」の言うのを聞きました。しかし、これらの節はきわめて明快で単純です、福音ーイエスの死、葬り、そして復活にするしが続きます。

### 福音の証明

コリントの信徒への手紙 I 第 15 章に定義された福音を見た後は、使徒言行録で使徒たちが宣べ伝えたことを示すことにより、死、葬りおよび復活がまさに福音であることを聖霊が私に証明してくれました。私たちはマルコによる福音書第 16 章を読んでイエスが出て行って福音を宣べ伝えることを 11 人の弟子に命じるのを見ました。

使徒言行録第 2 章で、弟子たちが聖霊に満たされた後、ペンテコステの日に集まった群衆の前でペトロが宣べ伝えをしています。

第 23-24 節で、ペトロはイエスについて話します：

このイエスを神は、お定めになった計画により、あらかじめご存じのうえで、あなたがたに引渡されたのですが、あなたがたは律法を知らない者たちの手を借りて、十字架につけて殺してしまったのです（23 節）：

しかし、神はこのイエスを死の苦しみから解放して、復活させられました。イエスが死に支配されたままでおられるなどということは、ありえなかったからです（24 節）。。

ペトロはイエスが十字架に付けられたことさらに神はイエスを復活させられたことを宣べ伝えますーすなわち、ペトロは福音を宣べ伝えたのです。

## 32 福音とは何か？

第 37 節に特に注目していただきたいと思います。

人々はこれを聞いて大いに心を打たれ、ペトロとほかの信徒たちに「兄弟たち、わたしたちはどうしたらよいのですか」と言った。

これが福音—イエスの死、葬り、復活を宣べ伝えるとき起こることです。人々は心が「鋭く痛みます。」これは突き刺されたような、突き通されたような痛みです。

私が初めてカリスマ派の集会に出席し始めたころ、ユダヤ人に対応する様々な方法を聞きました。ある日主が私に尋ねました、「お前はユダヤ人に対して証しする方法を知っているか」わたしの答えは「もちろん」でした。主は言われました、「使徒言行録第 2 章を読むことだ。」私は使徒言行録第 2 章を見てペトロがユダヤ人に福音を宣べ伝え、かれらの心を鋭く痛ませたことを知りました。

使徒言行録第 2 章を読み続けると、その日に 3000 人の魂が救われたことが分かります。福音の宣べ伝えはこのようなことができるのです。

### 足の不自由な男をいやす

使徒言行録第 3 章でペトロとヨハネは神殿に祈りに行きます。かれらは途中で生まれたときから足が不自由な男を見つけます。ペトロとヨハネは祈り、その男は完全に癒やされます。

私と一緒に使徒言行録 3;11—12 を読みます：

さて、その男がペトロとヨハネに付きまると、民衆は皆非常に驚いて、「ソロモンの回廊」と呼ばれる所にいる彼らの方に、一斉に集まってきた（11 節）。

これを見たペトロは、民衆に言った。「イスラエルの人たち、なぜこのことに驚くのですか。また、わたしたちがまるで自分の力や信心によって、この人を歩かせたかのように、なぜ、わたしたちを見つめるのですか（12節）。

次の二、三節でペトロが何を宣べ伝えたか見ます：

アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神、わたしたちの先祖の神はその僕イエスに栄光をお与えになりました。ところが、あなたがたはこのイエスを引き渡し、ピラトが釈放しようとしていたのに、その面前でこの方を拒みました（13節）。聖なる正しい方を拒んで、人殺しの男を赦すように要求したのです（（14節）；

あなた方は、命への導き手である方を殺してしまいました。神はこの方を死者の中から復活させてくださいました。わたしたちは、このことの証人です（15節）。

足の不自由な男を癒やしたのは福音でした。聖書のこれらの箇所の一つひとつを見る際に、マルコによる福音書 16:17 がしるしは福音書を信じ、堅持する人々の後についてくると語っていることに留意します。病人を癒やすことは信じる人々について来るしるしの一つです。

### 使徒たちは復活を宣べ伝えた

次に、使徒言行録 4:33 を見ます：

使徒たちは、大いなる力をもって主イエスの復活を証しし、皆、人々から非常に好意を持たれていた。

使徒言行録 17:18 で、パウロも復活を宣べ伝えます。

## 34 福音とは何か？

また、エピクロス派やストア派の幾人かの哲学者もパウロと討論したが、その中には、「このおしやべりは、何を言いたいのだろうか」と言う者もいれば、「彼は外国の神々の宣伝をする者らしい」と言う者もいた。パウロが、イエスと復活について福音を告げ知ら

せていたからである。

私たちはすでに復活の力について議論をしましたが、使徒たちが復活の証人となったことを見ていただきたい。彼らは「イエスがあなた方の罪のために死んだ」とだけ宣べ伝えてはいません。

### 彼らは異言で話した

使徒言行録 10 章に、コルネリウスという百人隊長が出ています。コルネリウスは信心が篤い男で神を畏れる人でした。神はペトロにコルネリウスの家に行っては話しをするように指示しました。34-35 節を読みます：

そこで、ペトロは口を開きこう言った。「神は人を分け隔てなさらないことが、よく分かりました (34 節) :

どんな国の人でも、神を畏れて正しいことを行う人は、神に受け入れられるのです(35 節)。

神は人を差別しません。使徒たちはこのときまでユダヤ人だけに宣べ伝えていました。コルネリウスは異邦人でした。イエスは死に、葬られ、ユダヤ人と異邦人を問わずすべての人のために復活しました。

続けて 39—40 節を読みます、ペトロの宣べ伝えを示したいからです。

わたしたちは、イエスがユダヤ人の住む地方、とくにエルサレムでなされたことすべての証人です。人々はイエスを木にかけて殺してしまいましたが（39 節）：

神はこのイエスを三日目に復活させ、人々の前に現わしてくださいました(40 節)；

これらの節の中に福音が見えますか。ペトロはコルネリウスの家の異邦人に福音を宣べ伝えていました。

第 44-46 節で起こったことを見てください：

ペトロがこれらのことをなおも話し続けていると、御言葉を聞いている一同の上に聖霊が下った（44 節）。

割礼を受けている信者で、ペトロと一緒に来た人は皆、聖霊の賜物が異邦人の上にも注がれるのを見て、大いに驚いた（45 節）。

異邦人が異言を話し、また神を賛美しているのを聞いたからである（46 節）。

ペトロが福音を宣べ伝えているとき、聖霊が異邦人の上にも注がれ、かれらは異言を話した。マルコによる福音書第 16 章は福音を信じる人に起こる最初のしるしの一つは異言を話すことだと書いています。

## 第7章

# 信仰の言葉

紙に書いたものに基づいて、すなわち、聖書の中に約束を見つけそれを基盤としなければならないと教える多くの説教者が現在います。神がテモテ II 2:7 で私に教えたように、あなたが聖書のこの章の各節を十分に考えられ、神の御心によって理解されますよう望みます。

ローマの信徒への手紙 10:8-9 を見ることから始めましょう：

では、何とされているのだろうか。

「御言葉はあなたの近くにあり、  
あなたの口、あなたの心にある。」

これは、私たちが宣べ伝えている信仰の言葉なのです（8節）；

口でイエスは主であると公に言い表し、心で神がイエスを死者の中から復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです（9節）。

8節は信仰の言葉はあなたの近くにあると書いています。「信仰の言葉」とは何でしょうか。多くの説教者が教えるようにそれは神の言葉なのでしょうか。

第8節の句読点に注意していただきたい。第8節はセミコロンの終わっています。これは第9節が第8節と密接な関係があることを示します。それでは、『私たちが宣べ伝えている信仰の言葉』とは何でしょう。信仰の言葉は福音—イエスは死に、葬られ、三日後に復活した、です。これが、第9節が語っていることです。



### 信仰は聞くことで得られる

あなたが聞くもう一つの教えは、信仰は聖書の中の神の言葉を聞くことによって得られるということです。ローマの信徒への手紙 10:13-15 を見ます:

「主の名を呼び求める者はだれでも救われる』のです (13 節)

ところで、信じたことのない方を、どうして呼び求められよう。聞いたことのない方を、どうして信じられよう。また、宣べ伝える人がなければ、どうして聞くことができよう (14 節)。

遣わされないで、どうして宣べ伝えることができよう。「良い知らせを伝える者の足は、何と美しいことか」と書いてある通りです (15 節)

15 節は説教者が宣べ伝えるべきことを語っています。彼らは平和の福音書を宣べ伝えるべきです。続いて 16 節を読みます:

しかし、すべての人が福音に従ったのではありません。イザヤは、「主よ、だれがわたしたちから聞いたことを信じましたか」と言っています。

かれらは福音—死、葬り、そしてイエスの復活に従いませんでした。第 16 節で、パウロは服従と信仰を等しいとしています。あなたが福音に従うならば、あなたは福音を信じ、頼りにします。

さて、ローマの信徒への手紙 10:17 を見ます:

実に、信仰は聞くことにより、しかもキリストの言葉を聞くことによって始まるのです。

## 38 福音とは何か？

これは非常に重要です。「実に信仰は・・・」これに先立つ節に関連させてローマの信徒への手紙 10:17 を読まなければなりません。」文脈の流れからこの節を抜き出して信仰は神のどんな言葉を聞いても得られると言うことはできません。先行する節は明らかに福音のことを言っており、福音はそれによって信仰が得られる神の言葉です。

### 聖霊は福音の証しです

使徒言行録第 10 章に戻って聖書の他の節を見たいと思います。使徒言行録 10:36-38 に次のように書いています：

神がイエス・キリストによって—この方こそ、すべての人の主です—平和を告げ知らせ、イスラエルの子らに送ってくださった御言葉を（36 節）、あなたがたはご存じでしょう。ヨハネが洗礼を宣べ伝えた後に、ガリラヤから始まってユダヤ全土に起きた出来事です（37 節）；

つまりナザレのイエスのことです。神は、聖霊と力によってこの方を油注がれた者となさいました。イエスは方々を巡り歩いて人々を助け、悪魔に苦しめられている人たちをすべて癒やされたのですが、それは、神が御一緒だったからです（38 節）。

ダラスフォートワース大都市圏の有名なテレビ説教者が 38 節は福音であると言うのを聞きました。多くの皆さんも聞かれたかも知れません。この説教者が言っていたことは—「神は聖霊と力によってイエスを選定した、そしてイエスは悪魔に苦しめられていたすべての人々に善行を行い癒やした。」ということです。

さて、イエスは福音の力のなかで活動し、癒やしは福音を信じる人々の後に現れるしるしの一つです。しかし、使徒言行録 10:38 は福音ではありません。皆さんがこのことを理解されていることをしっかりと確認したい、何故なら皆さんも私も福音を確実に把握しているべきだからです。一世界中で福音を宣べ伝えるとしたら、福音とは何かを明確に理解していなければなりません。

使徒言行録 5:29-32 を見ます。ペトロと他の使徒たちが最高法院の前にいます：

ペトロとほかの使徒たちは答えた。「人間に従うよりも、神に従わなくてはなりません (29 節)。

わたしたちの先祖の神は、あなたがたが木につけて殺したイエスを復活させられました (30 節)。

神はイスラエルを悔い改めさせ、その罪を赦すために、この方を導き手とし、救い主として、御自分の右に上げられました (31 節)。

わたしたちはこの事実の証人であり、また、神が御自分に従う人々にお与えになった聖霊も、このことを証ししておられます (32 節)。

聖霊は何の証人なのか。30 節と 31 節をもう一度見ます。聖霊はイエスの死、葬り、そして復活の証人です。

もしあなたの説教がイエスは聖霊と力によって聖別されたあるいはイエスは病にある人々を癒やしたとだけならば、その説教は空虚で福音を宣べ伝えていません。あなたは文字だけを伝えているのです。コリントの使徒への手紙 II 3:6 を考えて見ましょう：

神はわたしたちに、新しい契約に仕える資格、文字ではなく霊に仕える資格を与えてくださいまし

## 40 福音とは何か？

た。文字は殺しますが、霊は生かします。

聖霊は真実の証人です。聖霊はイエスが死に、葬られ、三日目に復活したことの証人です。聖霊があなたの宣べ伝えの証人となるとき、聞く者の心に命を産み出します。

## 第8章

### 種をまく人の譬え

福音はイエスの死、葬り、復活であることを明らかにしたので、種を蒔く人の譬えについて考えたいと思います。この譬えの話はマタイによる福音書第13章、マルコによる福音書第4章、さらにルカによる福音書第8章にあります。マルコ4:13でイエスはこの譬えが分からずにどうしてすべての譬えが理解できるだろうか、と言われていました。まず、種を蒔く人の譬えについてマルコの話しから始めたいと思います。

一緒にマルコによる福音書4:14を見ましょう：

**種を蒔く人は、神の言葉を蒔くのである。**

もうすでに、私が話そうとしていることはたぶんご存じだと思いますが、どうか調子を合わせてください。イエスがここで言っている「言葉」は福音—死、葬り、復活でなければなりません。マタイ13:19ではマタイはこれを「御国の言葉」と呼んでいます。マルコ1:14でイエスは神の国の福音を宣べ伝えに来ました。この譬え話について進めていくとこの蒔かれた「言葉」が福音であることがさらに明らかになります。

#### 道端の心

15節を読みます：

**道端のものとは、こういう人たちである。そこに御言葉が蒔かれ、それを聞いても、すぐにサタンが来て、彼らに蒔かれた御言葉を奪い去る。**

ルカによる福音書8:12でルカは言います：

## 42 福音とは何か？

道端のものとは、御言葉を聞くが、信じて救われることがないように、後から悪魔が来て、その心から御言葉を奪い去る人たちである。

二つのことに注目します。第一は、言葉は心に蒔かれること一精神あるいは知性にはありません。第二にルカは、悪魔が「御言葉を聞くが、信じて救われることがないように」道端の心から言葉を奪い去ると書いています。これこそが蒔かれる言葉が福音であると私を確信させました。私はこの書を通じて福音があなたを救うことを示してきました。

### 石だらけの心

続けてマルコによる福音書 4:6-17 を読みます：

石だらけの所に蒔かれるものとは、こういう人たちである。御言葉を聞くとすぐ喜んで受け入れるが（16 節）；

自分には根がないので、しばらくは続いても、後で御言葉のために艱難や迫害が起きると、すぐにつまずいてしまう（17 節）。

石だらけの心を持つ人はすぐに喜んで言葉を受け入れますが（「兄弟よ、いい説教だった！」）根がないので艱難や迫害が起こるとつまずいてしまいます。

第 17 節には艱難と迫害は世界のために来ると書いています。使徒言行録 14:22 を見ます：

弟子たちを力づけ、「わたしたちが神の国に入るには、多くの苦しみを経なくてはならない」と言って、信仰に踏みとどまるように励ました。

使徒は弟子たちに「信仰を続け」、「多くの苦難を通り抜けて」天国に入るよう強く奨めていました。

ひとたび神が福音をあなたの心に明らかにすると、必ずや悪魔が苦痛と苦難を持って直ちにやってきてあなたをつまづかせようとしします。ルカによる福音書 16:16 を考えます:

**律法と予言者は、ヨハネの時までである。それ以来、神の国の福音が告げ知らされ、誰もが力づくで押し入ろうとしている。**

「力づくで」という言葉は押し入ると言う意味です。ローマの信徒への手紙 1:16 には神の国には力づくで入らなければならないと書いてあります。その方法は何でしょうか。福音が信じる者一人一人の救いに通じる神の力または能力なのです。そして悪魔があなたに対してもたらした苦痛と苦難を克服するには、福音—イエスは死に、葬られ、三日目に復活した—を信頼し、頼りとし、堅持しなければなりません。

元気でいなければなりません。イエスが私たちのための好例です。イエスはだれよりも苦しみを受けました、しかし私たちがそうするであろう同じ方法で克服しました—福音の力を信じることによって。ヨハネによる福音書でイエスが言われていることを見ましょう:

**これらのことを話したのは、あなたがたがわたしによって平和を得るためである。あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている。**

イエスは神が三日目に復活させるという約束を信頼し、頼り、堅持して世に打ち勝ちました。

茨の心

## 44 福音とは何か？

種を蒔く人の譬えでの第三の種類は茨の心です、マルコによる福音書 4:18-19 を読みます：

また、ほかの人たちは茨の中に蒔かれるものである。この人たちは御言葉を聞くが（18 節）、

この世の思い煩いや富の誘惑、その他いろいろな欲望が心に入り込み、御言葉を覆いふさいで実らない（19 節）。

コロサイ人への手紙 1:5-6 を見ます：

それは、あなたがたのために天に蓄えられている希望に基づくものであり、あなたがたは既にこの希望を、福音という真理の言葉を通して聞きました（5 節）；

あなたがたにまで伝えられたこの福音は、世界中至るところでそうであるように、あなたがたのところでも、神の恵みを聞いて真に悟った日から、実を結んで成長しています（6 節）：

第 6 節は福音があなたの命に成果をもたらすものであると書いています。もしあなたがこの世で欲するもの、富の欺瞞、その他の欲望を抱いていると、心に蒔いた福音が押さえられます。ルカによる福音書 8:14 はあなたが完成に達することはないと言っています。

### 善い心の人

種を蒔く人の第四の種類は善い心を持った正直な人です。マルコによる福音書 4:20 を見ます：

良い土地に蒔かれたものとは、御言葉を聞いて受け



## 種をまく人の譬え 45

入れる人たちであり、ある者は 30 倍、ある者は 60 倍、ある者は 100 倍の実を結ぶのである。

善い心を持った人は言葉を聞いて受け入れます。マタイによる福音書 13:23 は善い心はこの言葉を聞いて理解すると書いています。ルカによる福音書 8:15 は善良で正直な心はその言葉を聞いて従い忍耐強く実を結ばせると書いています。

もし私たちがイエスは罪のために死に、葬られ、三日目に復活したという福音を受けてこれを堅く保持するならば私たちの命は実を結びます。

## 第9章

### キリストの賜物

福音の啓示を受けたときは、イエスの中にとどまり神の国の実を結ばなければなりません。ヨハネによる福音書 15:4-5 でイエスは言われています：

わたしにつながっていなさい。わたしもあなたがたにつながっている。ぶどうの枝が、木につながってなければ、自分では実を結ぶことができないように、あなたがたも、わたしにつながってなければ、実を結ぶことができない（4節）。

わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからでる（5節）。

現在の教会では非常に多くの人々がひとたびこの言葉について多少の知識を授かるとどこにでも出かけて宣べ伝える権利があると考えています。しかしイエスは第4節で私たちは自分で実を結ぶことはできないと言われます。第5節はイエスなしでは私たちは何もできないと書いてあります。私たちの内におられるイエスが実を結ばれるのです。

ガラテヤの信徒への手紙 2:20 を見ます：

生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。わたしが今、肉において生きているのは、わたしを愛しわたしのために身を捧げられた神の子に対する信仰によるものです。

## キリストの賜物 47

死んだ人は実を結べません。もしあなたがキリストと共に十字架に付けられたら、もはや生きておらず実を結べません。

1970年代の中頃に、イエスは私にヨハネ 15:16 について話されました：

あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなた方を選んだあなたがたが出かけていって実を結び、その実が残るようと、また、わたしの名によって父に願うものは何でも与えられるようと、わたしがあなたがたを任命したのである。。

教会での業のために私たちを選び任命されたのはイエスです。

さて、エフェソの信徒への手紙 4:7 を見ます：

しかし、わたしたち一人一人に、キリストの賜物のはかりに従って、恵みが与えられています。

神に至る道を学ぶことはできません。告白して神への道に至ることはできません。神の召命は私たちへの賜物です。それは恵みによって与えられます。その恵みにどのようにしたら近づけるのでしょうか。

ローマの信徒への手紙 5:1-2 を読みます：

このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており（1 節）：

このキリストのお陰で、今の恵みに信仰によって導き入れられ、神の栄光にあずかる希望を誇りに

## 48 福音とは何か？

しています。

第2節では私たちは信仰によって神の恵みに近づけると書いてあります。ローマの信徒への手紙は信仰が神の言葉を聞くことによって来ると宣べています。私はこの書の初めの部分でイエスが死に、葬られ、三日目に復活したという福音は信仰が来るために聞く必要がある神の言葉であることを示しました。

そこで、私たち一人一人のために神が持っている仕事は私たちが福音を信じたときに来ます。引き続きエフェソの信徒への手紙 4:8-10 を読みます：

そこで、「高い所に昇るとき、捕らわれ人を連れて行き、人々に賜物を分け与えられた」と言われています（8節）

「昇った」というのですから、低い所、地上に降りておられたのではないのでしょうか（9節）

この降りて来られた方が、すべてのものを満たすために、もろもろの天よりもさらに高く昇られたのです（10節）

イエスが復活したとき人々に賜物を与えました。イエスが与えた賜物とは何でしょうか。

エフェソの信徒への手紙 4:11 を見ます：

そして、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を福音宣教者、ある人を牧者、教師とされたのです；

それは教会への贈り物である使徒、これがキリストの賜物です。教会への贈り物である預言者、これがキリストの賜

## キリストの賜物 49

物です。同じように教会への贈り物である福音宣教家、牧師、教師、これがキリストの賜物です。

教会の五つの聖職者—使徒、預言者、牧師、教師、福音宣教者の目的は何でしょうか。エフェソの信徒への手紙 4-12-13 を読みます：

こうして、聖なる者たちは奉仕の業に適した者とされ、キリストの体を造り上げてゆき(12 節)；

ついには、わたしたちは皆、神の子に対する信仰と知識において一つのものとなり、成熟した人間になり、キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長するのです (13 節) ；

聖霊による福音への奉仕者、使徒、預言者、牧者、教師、および福音宣教者が聖なる者たちを完成します。

使徒パウロは福音の奉仕者でした。ローマ人への手紙 15:15-19 でパウロは語ります：

記憶を新たにしてもらおうと、この手紙ではところどころかなり思い切って書きました。それは、わたしが神から恵みをいただいて (15 節) 、

異邦人のためにキリスト・イエスに仕える者となり、神の福音のために祭司の役を務めているからです。そしてそれは、異邦人が、聖霊によって聖なる者とされた、神に喜ばれる供え物となるためにほかなりません (16 節) 。

そこでわたしは、神のために働くことをキリスト・イエスによって誇りに思っています (17 節) 。

キリストがわたしを通して働かれたこと以外は、あえて何ももうしません。キリストは異邦人を神に従わせるために、わたしの言葉と行いを通して

## 50 福音とは何か？

(18 節)、

また、しるしや奇跡の力、神の霊の力によって働かれました。こうしてわたしは、エルサレムからイリリコン州まで巡って、キリストの福音をあまねく宣べ伝えました (19 節)。

ローマの信徒への手紙 15:29 で、パウロは述べます：

そのときには、キリストの祝福をあふれるほど持って、あなたがたのところに行くことになると思っています。

福音の恵みの豊かさが完全な実を結びます。